

設問1

生涯発達について誤っているものはどれか、1つ選べ

A1	発達には生涯を通じて常に獲得(成長)と喪失(衰退)とが相互に関連しあって共存する過程である
A2	個体の発達には個人差が大きく、生物学的要因や歴史的要因、個人の生活上の出来事(ライフイベント)など、様々なことから影響を受ける
A3	生涯発達には様々な理論が存在するが、一般的に一定の年齢ごとにライフステージがあり、各ライフステージに特徴や発達課題がある
A4	安定期と不安定な時期を繰り返しながら発達しており、この不安定な時期を「過渡期」といい、自分と環境を見つめなおす時期とされている
A5	老年期は衰退の時期であり、成人期以降に発達するものはない

正解 A5

結晶性知能(過去の経験などに基づく知能)は老年期こそ最高の状態になると考えられている

設問2

15歳～24歳のライフステージにおける特徴について誤っているものはどれか、1つ選べ

A1	職業への準備と参入の期間であり、様々な活動を通じて自己概念を構築し、それをどう職業で表現できるかを考え、職業選択が行われる時期である
A2	自分自身をどのように感じているか、自分の価値・興味・能力がいかなるものかについて、現実的に学ぶことが求められる
A3	この時期には仕事の世界に関する情報収集、職業選択に必要な態度とスキルを得ることが重要となる
A4	学校から社会へ移行する時期であり、達成する発達課題も多くデリケートで変化に富んだ時期となる
A5	組織参入過程でみられるリアリティ・ショックは離職につながるため、遭遇しないほうがよい

正解 A5

個人の適応を促す機能的側面があり、リアリティ・ショックに適切に対処できることがこの段階での発達課題の1つである

設問3

各時期のライフステージにおける課題や特徴について誤っているものはどれか、1つ選べ

A1	25～30歳の時期は選択した職業に落ち着き、職業的地位を安定させることが発達課題とされる
A2	30歳前後で夢や目標を見出せない場合、漠然とした焦りのようなものが現れ「30歳の過渡期」という危機を経験することもある
A3	40歳前後は「人生半ばの過渡期」と呼ばれ多くの人が経験するが、男性に比べて女性は経験することが少ないとされる
A4	45歳以降の中年期には身体的変化、社会的変化に加えて、家族発達の観点からも変化の多い時期であり、心理的变化や様々なストレスをもたらす
A5	65歳以降は職業生活を引退、またはペースダウンする時期であり、仕事以外の役割を開発していくことが課題となる

正解 A3

男性も女性もおおむね同じ発達段階を辿り、女性の場合には、伝統的性役割と個人の生き方の間で葛藤が生じやすい

設問4

転機について誤っているものはどれか、1つ選べ

A1	転機とは、人生役割、人間関係、日常生活、自己概念の4つの変化が同時に起きることである
A2	生涯発達における「過渡期」も転機と考えることができる
A3	転機とは出来事そのものが問題になるのではなく、本人の捉え方により転機と認識されることで転機となる
A4	転機には「予測していた転機」「予測していなかった転機」「期待していたものが起こらなかった転機」がある
A5	キャリアの発達には転機の連続で、人生の転機や変化は誰もが経験するものであり、それにどう対処し乗り越え、そこから何を学ぶかが重要である

正解 A1

4つのうち、どれか1つでも変化が起きれば、転機となりうる

設問5

キャリア形成について誤っているものはどれか、1つ選べ

A1	社会的・経済的な変化に伴い、近年では個人が主体的に生涯を通じたキャリア形成を行うことが重要とされている
A2	「リカレント教育」とは「いつでも有用なスキルを身につけられる学び直し」のことであり、国の重要政策として各省庁が連携して様々な取り組みを行っている
A3	学校教育制度のなかでの「キャリア教育」は働くことが身近となる高等学校以降に行われている
A4	「キャリア」という言葉とは「仕事における経歴」という意味だけでなく「生涯を通じた社会的役割」という概念を持った意味で使用されることもある
A5	キャリア形成のために個人は自発的に職業能力開発に努める必要があるが、企業や組織は個人が取り組みを促進することができるように支援を行う必要がある

正解 A3

義務教育の目標の1つに「個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」があり、小学校段階から職業やキャリアに関わる教育を行うべきとされている